

令和2年度第3回富山県国民健康保険運営協議会 議事録要旨

◆日時：令和3年3月30日（火） 15:00～16:00

◆場所：富山県民会館 701号室

◆出席委員：11名

【被保険者代表】

石黒委員、竹内委員、中田委員、柚木委員

【保険医又は保険薬剤師代表】

井川委員、山崎委員

【公益代表】

松原委員、千田委員、中村委員

【被用者保険等保険者代表】

松田委員、松井委員

◆事務局：石黒厚生部長、木内理事、五十里厚生部次長、  
藪下厚生企画課長、佐度厚生企画課医療保険班長 ほか8名

1 開会

2 挨拶（石黒富山県厚生部長）

3 議事

（1）富山県国民健康保険運営方針の改定について

資料1-1 富山県国民健康保険運営方針の改定に係るこれまでの経過

資料1-2 「富山県国民健康保険運営方針改定（中間報告案）」に対する意見

資料1-3 中間報告案（第2回国民健康保険運営協議会資料）と改定（案）対照表

（2）国民健康保険事業の運営に関する事項（答申）（案）について

①富山県国民健康保険運営方針改定（案）

②国民健康保険事業納付金の徴収（算定方法）（案）

資料2-1 富山県国民健康保険事業の運営に関する事項について（答申）（案）

別紙1 富山県国民健康保険運営方針（案）

別紙2 国民健康保険事業費納付金の徴収（算定方法）（案）

- (3) 令和3年度市町村事業費納付金の算定結果について
  - 資料3 令和3年度市町村事業費納付金の算定結果について
  - 別紙1 令和3年度国民健康保険事業費納付金算定について
  - 別紙2 令和3年度標準保険料率の公表について
  
- (4) 令和3年度富山県国民健康保険特別会計予算について
  - 資料4 令和3年度富山県国保特別会計予算概要について
  
- (5) 令和3年度保険者努力支援制度の評価結果について
  - 資料5 令和3年度保険者努力支援制度の評価結果について
  - 別紙 令和3年度保険者努力支援制度の各指標毎の評価結果について
  
- (6) 令和3年度都道府県国保ヘルスアップ支援事業について
  - 資料6 令和3年度都道府県国保ヘルスアップ支援事業について
  
- (7) その他
  - 資料7 オンライン資格確認等システムについて

#### 4 意見交換

##### (委員)

現在、富山県で起きた後発医薬品の問題が取り沙汰されており、今日もそのことで初めての委員会があったと聞いたが、執行部の方でこの状況について説明していただきたい。

##### (事務局)

今ほどお話があったように、今日の午前中、今回の日医工の事案を受けて、再発の防止と、医薬品業界そしてジェネリック医薬品の信頼回復を審議いただく薬事審議会の下に専門分科会をつくり、外部の専門家も加えたところで今回発足した。

第1回だったので、情報共有というところで、それぞれの関係分野の先生方、有識者の方々、例えば医薬品業界、薬剤師会、病院薬剤師会、医師会といった関係の方々で、情報共有を図ったところ。あと2回開催して、再発の防止と信頼性の回復に関する議論を取りまとめたい。それに基づいて県としても対応していく。

もう一つは、今日は薬事審議会の専門分科会を開いたが、これとは別に、第三者の有識者を招いて再発防止の検討として調査委員会を開き、県の今までの調査のやり方の総括と、今後の再発防止について、専門的に議論いただく。こ

の二つの取り組みをやっていき、今年か来年度の第1四半期の終わりに取りまとめができればと思っている。

(委員)

資料2-2の4について、市町村における徴収の率が出ているが、その何パーセントかという数字に対して、どのような徴収の働きがあるのか。

(事務局)

収納対策については、この運営方針案の中でいうと24ページの方に記載している。市町村によってそれぞれ独自で取組みをしており、最悪の場合は財産調査や差押さえになるが、その前にコンビニでの収納、電子的な決済、マルチペイメントやクレジット決済などの導入、あるいは多重債務を持っている方は相談していただくなど、様々な取組みをしている。

収納率については、それぞれ規模に応じて目標を作っているが、市町村によってそれぞれの現場での苦労もあると聞いているので、現実には滞納などになる前に相談に応じて、減免などの制度も活用しながら、なるべく納めていただくように働き掛ける取組みと思っている。

(委員)

今回の運営方針の中に、保険料の統一と事務の効率化を明記しているが、保険料を統一するためにも、医療費の適正化というのが大事。今の医療保険制度、国民皆保険制度を守ることにつながると思っている。この適正化のためにジェネリック使用割合の市町村別データを入れてもらっている。

市町村の中でこういうデータの校下別の比較をやっているが、大事なのは他の県との比較や他の市町村との比較。遅れているところがあれば、市町村の市民の方に危機感を持っていただくことが、改善に向けて一番のインセンティブになると思っている。このデータを有効に活用して広報等をしていただければ、適正化にもなると思っている。

ジェネリックの推進は保険者にとって医療費の適正化の一番大きな武器だったが、今回の件によって非常に大きな危機感を持っている。ただ、ここで富山県の使用率が下がらないように、より一層推進していきたい。先ほどお話があったが、県の方でもしっかりメーカーを指導していただいて、富山の薬は大きく生まれ変わった、安全なのだというようなことになるように、タイミングを見て全国に広報いただきたい。

ただ、ジェネリックは少し苦戦すると思うので、薬の適正使用ということで、医療費の適正化にもっと大きな効果かもしれない多剤投与(ポリファーマシー)について、国保の方でもいろいろと保険者努力支援制度を利用した事業を行っており、被用者保険でも力を入れてやっていきたいと思っているのでぜひ連携してやっていただければと思っている。

## 5 閉 会